



# Bibilia

\*先生方の著作物を読んだことがありますか?鑑賞したことがありますか?

図書館で新たに受け入れた先生方の著作物を紹介しています。

\*心に残るすばらしい本を読んだことがありますか?

学生のみなさんと先生方に、「好きな本・作家」について語っていただきました。

★図書館では、クリスマス絵本のコーナーを設置しました。

杉浦館長の個人コレクションをもとに、クリスマス絵本のコーナーを設置しました。

## 巻頭言

# 「なぜ？」に答える

## もくじ

東京純心女子大学 学長 : 田崎 清忠

### クリスマス特集

- クリスマス絵本のコーナーを  
設置しました 2
- サンタクロースが生まれた時 3

### 教職員の著作物紹介

- 今年度図書館で受け入れた著  
作物一覧表 4
- 私の作品・著作物紹介 5
- 先生方に自らの作品・著作物の  
紹介をお願いしました

### 私の好きな本・作家!

- 学生の皆さんが好きな本・作家 6
- 先生方が好きな本・作家 7

### 図書館から

- しーず・図書館司書からの  
メッセージ③ 8
- 新着図書案内・お知らせ 8



「佐藤くんが脚を折ったんだってさ。どうしてなんだろうね」と誰かが言います。すると同僚が返事します。「あいつは不注意だからだよ。いつも折るんだよ、あっちこっち」。佐藤さんが通っている外科医は説明します。「歩道の段差で足が引っかけたんですな。年齢も関係あります。頭脳と足先のコーディネーションがうまく働かなくなるのです」。上司の自称精神分析家のコメントは違います。「心のどこかに、仕事を回避しようという意識が働いたという解釈がもっとも妥当だよ」。でも佐藤さんの奥さんは言います。「どうせろくでもないこと考えていたのよ。そういう人なのよ、うちの主人は」。

何かが起きたとき、それがなぜ起きたのかを説明する答え方は人さまざまです。この違いは、その人が立っている基盤の違いから来ます。考えてみると、私たちは日常的にこのような行為と思考の連鎖を経験しています。「うさぎの目はなぜ赤いの」という子供の質問にDNAや色素の話を持ち出しても、子供は理解しないでしょう。知っていることと、それを相手によく

分かるように説明することとは別問題です。しかしいずれにしても、人間関係におけるコミュニケーションのプロセスの中においては、まず「なぜ?」の内容についてのさまざまな角度からのより正確な理解を持っていることが大切です。

中学生のとき、ある日突然「僕はなぜ生きているんだろう」という疑問に取り付かれたことがあります。悶々としている私に「西田幾太郎の本を読め」とアドバイスしてくれた先輩がいました。列車通学をしていた私は、学校の帰り車中で読み始め、駅を降りたころにはメチャメチャになっていました。駅前の敷石に座り込み、人前もかまわずオイオイ泣きました。今思えば、この本は難しい哲学書で、中学生の私に分かるはずもなかったのですが、なぜか私は魂を揺り動かされるような感動を味わっていたのです。これが私の長い「本との付き合い」の始まりでした。

「なぜ?」に答えられるような本に出会った人はとても幸せです。



# クリスマス絵本のコーナーを設置しました

## クリスマス絵本のカ

図書館長：杉浦 太一



クリスマス絵本にことさら強い関心をもって集めたのでもないが、昨年从今年にかけて50冊が150冊に増えた。

昨年の夏、学生に向けて授業以外に自分の出来る、自分らしいサービスがあるのではと絵本文庫の開設を思い立った。そのオープニングのアトラクションとして図書館にもちかけたのが手持ちの「クリスマス絵本の展示会」であった。

幼児教育を長年研究テーマとしてきたこともあって絵本に関心をもちはじめ一時は数千冊を集め、本格的な研究もおこなったりしたが、東京純心に移ってからは数十冊を残し、あとは施設や研究機関にあげてしまっていた。それでもやはり

気に入ったのは手元におきたくて、一冊また一冊と増えていき、いつのまにか一つの本棚を占領するようになっていた。

この学生には絵本など無縁だと思っていたが、研究室を訪れてくれる学生は時になつかしがり、時に大発見したかのようなリアクションで絵本の本棚を見に来てくれるようになり、これならという感じであった。「クリスマス絵本がこんなにまとまってあるなんて!! スゴイ!!」展示を見に来てくれた学生数人のリアクションであった。この「スゴイ!!」というリアクションの重要性に今さら気づき、出来る限り多くクリスマス絵本をとりあえず集めていこうと思っている。



クリスマス絵本コーナーは、洋書・ビデオ・CDなどが置いてある3階第二閲覧室の二階です。

## クリスマス絵本コレクション

杉浦先生のコレクションを基に、現在200冊ほどの絵本が集まっています。内容は様々で、古典的な名作に限らずアンパンマンやコボちゃんを主人公にした絵本もあります。キリストの誕生、サンタクロース、プレゼント、お料理などなど、話題に事欠かないクリスマスとはいえ、これほど多くの物語を生み出すクリスマスの魅力に今さらながら驚きを感じます。

見比べてみるのも良いでしょう。

少しずつですが、これからもこのコレクションを増やしていきます。日本のものに限らず海外の絵本も集めますので楽しみにしててください。

そして、このコーナーはクリスマスの時期だけの展示でなく、常設のコーナーです。真夏でもクリスマス気分を味わうことができます。“季節はずれ”と感ずることがあるかもしれませんが、しかし、どの絵本も、心温まるものばかりです。私たちの疲れた心を癒してくれるのではないのでしょうか。サンタクロースの存在を信じていた幼い頃を思い出して、静かなときをすごしてはいかがでしょうか。

ソファに座ってゆったりとお楽しみください。

絵本の形も様々、サンタクロースの形のもの、絵が飛び出すもの、仕掛けがあるものなど、読んでさわって楽しんでください。色使いもクリスマスならではの華やかなものもあり、落ち着いたものもあり、表紙を見ているだけでもワクワクしてしまいます。また、同じお話を題材にした、様々な翻訳や画家による作品を



# サンタクロースが生まれた詩



## VISIT FROM SANTA CLAUS

by Clement C. Moor

'Twas the night before Christmas, when all through  
the house

Not a creature was stirring, not even a mouse;

The stockings were hung by the chimney with care,  
In hopes that St. Nicholas soon would be there;

The children were nestled all snug in their beds,  
While visions of sugar-plums danced in their heads;

And mamma in her 'kerchief, and I in my cap,  
Had just settled down for a long winter's nap,

When out on the lawn there arose such a clatter,  
I sprang from the bed to see what was the matter.

.....

この詩はニューヨークに住む神学者クレメント・ムーア (1779-1863) が1822年に自分の娘のために作ったものです。ここで紹介したのはその冒頭部分です。(題名は「The night before Christmas」となっている場合もあります。) この詩は1823年12月23日にニューヨークの新聞「The Sentinel」に掲載され一躍有名になり、様々な国の言葉に訳され世界中に広まっていきました。

この詩のサンタクロースは、現在皆さんにおなじみの姿で登場し、そしてそのイメージが広く定着したのはこの詩によるものだとも言われています。

絵画、音楽、映像などこの詩に影響を受けたものは数え切れないほどあるようです。パロディもたくさん作られていて、インターネットで検索するとたくさん出てきます。皆さんも、探してみてください。



## VISIT FROM SANTA CLAUS (THE NIGHT BEFORE CHRISTMAS)

《クリスマスイヴのこと》  
アニタ・ローベル絵  
松井るり子訳  
セーラー出版・1993年

《クリスマスのまえのばん》  
ターシャ・テューダー絵  
中村妙子訳  
偕成社・2000年改訂新版

《クリスマスのまえのばん》  
トム・パトリック絵  
上野和子訳  
大日本絵画・1997年

《サンタ・クロースがとんできた》  
ペニー・アイプス絵  
きたむらたろう訳  
パルコ出版・1989年

《サンタがイブにやってきた》  
マイケル・フォアマン絵  
きたむらまさお訳  
大日本絵画・1990年

訳・絵それぞれで  
すが、皆さんはど  
れが好きですか？

《サンタクロースがやってきた》  
グランマ・モーゼス絵  
倉橋由美子訳  
JICC出版局・1992年





# 教職員の著作物紹介

今年度図書館で受け入れた教職員の著作物を紹介します。

「教職員の著作物コーナー」を設けていますので、ぜひ手にとってください。(氏名の五十音順)

飯田雅章執筆	『かたちとイメージの記号論』	東海大学出版会 1991
井出洋一郎監修	『ブルックリン美術館所蔵バルビゾン派の画家たち展』	毎日新聞社 1998
A.Wainwright監修	『親子ではじめる英会話絵じてん』	三省堂 2001
上原文丸[出展]	『一水会展 第62回』	一水会 2000
浦田カズ代[出展]	『新しい年、新しい生、大嬉美術展図録』	韓国カトリック美術家協会 2001
岡部昌幸監修	『21の日本の名画を愉しむ』	青春出版社 1999
岡部昌幸監修	『ピカソの「正しい」鑑賞法』	青春出版社 2000
岡部昌幸[執筆]	『ジャポニスム入門』	思文閣出版 2000
尾山真弓訳	『メンデルスゾーン』	音楽之友社 1999
甲斐義幸著	『科学文化論』	朝倉書店 1998
柿崎孝夫執筆	『文化政策入門』	丸善 2001
柿崎孝夫著	『甦れ、美意識。』	資生堂企業文化部 1995
君島昌之執筆	『高等学校用デザイン史』	実教出版 1996
小林能成[ほか]著	『心理学への招待』 改訂版	学術図書出版 1996
酒井多賀志演奏	『酒井多賀志オルガンリサイタル 第1集』 (CD)	Studio Lyric 2000
酒井多賀志演奏	『酒井多賀志オルガンリサイタル 第2集』 (CD)	Studio Lyric 2001
酒井多賀志作曲	『イントロダクションとフーガ 二長調 Op.50』 (楽譜)	岡野オルガン工房楽譜出版 1999
澤田昭夫著	『見えないものを大切に』	聖母の騎士社 2001
妙摩光代執筆・編集	『春よとこしなえに』	明石田鶴子 1980
田崎清忠監修	『高円宮杯全日本中学校英語弁論大会 第52回』	日本学生協会基金 2001
田尻真理子[執筆]	『芸術理論の現在』	東信堂 1999
長嶋秀世[ほか]編著	『初級シスアドコンパクト用語辞典 2000/2001年度』	ピアソン・エデュケーション 2000
馬越恵美子執筆	『通訳の仕事』	アルク 1995
松平頼暁訳	『ベリオー現代音楽の航海者』	青土社 1998
Peter Milward執筆	『ピーター・ミルワードの世界』	沖積舎 1995
Peter Milward訳	『森の絵本 対訳版』	講談社 2001
保多由子歌	『見えないこども』 (CD)	ビクターエンタテインメント 2001
米田綾子著	『岩永マキ (シリーズ・福祉に生きる14)』	大空社 1998
米田綾子[ほか]著	『この子らと生きて —近藤益雄とちえおくれの子の生活教育』	大月書店 1986

# 私の作品・著作物紹介



\*\*\*先生方に自らの作品・著作物を紹介していただきました\*\*\*

## 芸術文化学科 : 酒井多賀志 先生 作曲

### 『イントロダクションとフーガ 二長調 Op.50』(楽譜)

1900年代最後の1999年、世紀末の暗雲を吹き払い、新世紀への希望を託した想いもこめて、フーガとしては初めて、私自身のオリジナル主題によるこの曲を作曲しました。

イントロダクションは、1982年に作曲した交響的即興曲「光と風と波の心象」op. 3の一部を転用しています。フーガは11/8、8/8、7/8、5/8拍子が複雑に交錯する、今までに無い性格を持った曲で、快活さとスリルと躍動感に満ちています。追分風なフリーリズムのイントロダクションと複雑な拍子のフーガ、その結びつきを通して、ポリフォニー音楽の新しいスタイルを模索してみました。

### 『酒井多賀志 オルガンリサイタル 第1集、第2集』(CD)

第1集は2000年に、第2集は2001年にリリースしました。どちらも永年弾いてきたバッハの演奏が、大体现在の形にまとまりつつあるので、それを記録しておこうと言う意味と、私自身でもオリジナル作品の演奏記録を残しておこう、と言う2つの意図で企画製作しました。

第1集にはバッハの作品は、有名なトッカータとフーガ 二短調、その他4曲が、私の作品は、イントロダクションとフーガ 二長調 その他3曲が入っています。

第2集にはバッハの作品は幻想曲とフーガト短調、他4曲、私の作品は、「アメイジング・グレイス」の主題による変奏曲、他4曲が入っています。



## 英米文化学科 : 米田綾子 先生 著作

### 『岩永マキ (シリーズ・福祉に生きる 14)』

墓はその人の生き方の影を留める。育児事業の先駆者、岩永マキは長崎市浦上の共同墓地の一角に、協労の仲間とともに眠っている。幕末から維新にかけて起こったわが国最大かつ最後となったキリシタン捕縛と弾圧。浦上信徒3400名が金沢以西の諸藩に流配された。マキは瀬戸内海の日生(ひなせ)諸島の鶴島に送られた。21歳の春のこと。飢えと拷問、群生する笹の原野開墾の過酷な生活が3年間続いた。父と妹はここで牢死している。

禁教令撤廃後、故郷に戻ったマキは、仏人宣教師ド・ロを助け、天然痘や赤痢が流行した村々を、流配仲間とともに篤志看護となっ

て奔走した。マキの手元には一人の幼児が残された。その子をきっかけに、72歳の人生を終えるまでマキが養子として引き受けた貧・孤児は1834名にのぼった。マキと同志の名が並ぶ碑銘のなかに、同志以外の年齢不詳や高齢者8名の名がある。原爆落下時までお世話していた寄る辺なき人々であろうか。「共に生きる」マキの生き方が、1枚の碑銘に象徴されている気がする。

眼の前に助けを必要とする人がいるから、手をのべるのだというマザーテレサと共通する福祉の思想がここにある。



# わたしの好きな本・作家！！

## 『ライオンと魔女』(ナルニア国ものがたり) C.S.ルイス著

英米文化学科 1年  
山川 希実子 さん

白い魔女が恐れているもの、それは人間の子供と偉大なライオン「アスラン」です。古い言い伝えで、ナルニアを救うのはアダムとイブの息子達となっているからです。

ある日、ピーター、スーザン、エドモンド、ルーシーの兄弟は、不思議な力によってナルニアへの入り口を見つけます。気づかないうちに、イギリスの大きな屋敷から、雪のふる暗い森の中に来てしまっていたのです。ここからこの物語は始まります。

ナルニアは不思議な国です。森には一角獣やセントールが住み、獣はみな言葉を話し、夜になれば木々の精やフォーンが踊りだす。夢に見た

ようなファンタジーの世界です。

この「ナルニア国ものがたり」は、1950年から1956年に書かれ、生き生きと個性豊かな登場人物と、他にはない興奮、空想の世界とは思えない冒険が、今日まで人々を虜にしてきました。私ももう数え切れないほど読み返しました。ナルニア国物語はどの本から読んでも完全なひとつの冒険物語になっていますが、7冊全部でさらに壮大な1つのストーリーになっています。すべて読んだなら、ナルニア国の創世記から「終わり」まで、そしてアスランの「もうひとつの名」を知ることができるはずで

図書館には、日本語版、英語版の両方があります。



著者のC.S.ルイスは、この作品を執筆順ではなく、物語の中の年代順に読むべきであるといっています。

ただし、『ライオンと魔女』は、最初から『魔術師のおい』を読んだほうが物語がわかりやすいかもしれません。

4、5、6の年代は崩さずに読み、『さいごの戦い』も順番どおりに一番最後に読むのがおすすめです。

邦題(執筆順)	原書名	年代
ライオンと魔女	<i>The Lion, The Witch and The Wardrobe</i>	2
カスピアン王子のつのぶえ	<i>Prince Caspian: The Return to Narnia</i>	4
朝びらき丸、東の海へ	<i>The Voyage of The Dawn Treader</i>	5
銀のいす	<i>The Silver Chair</i>	6
馬と少年	<i>The Horse and His Boy</i>	3
魔術師のおい	<i>The Magician's Nephew</i>	1
さいごの戦い	<i>The Last Battle</i>	7



## 『風を見た少年』 C.W.ニコル著

芸術文化学科 2年 入野 晴恵 さん

私の好きな本は作家C. W. ニコルが日本語で書いた一人の少年が繰り広げる長編ファンタジー、「風を見た少年」です。少年は人のこころを読み取ったり、風や植物の声を聞いたり、動物と話す事が出来たり、空を飛ぶ事が出来るのです。彼が人々に与えた影響、彼の純粋な心、考え方、生きることの素晴らしさ、この本は忘れかけていた何かを思い出させます。少年は戦争の最中でもその存在で人々に勇気を与え、自らの死を通して「生きること

の美しさ」を残して逝きました。少年が体験するさまざまな出来事を読みながら、まるで自分もその場に少年と一緒に居るかのような錯覚に陥ることもあります。特に私の好きな場面は、少年が初めて空を飛んだところです。読んでいると私まで風を見て、感じて飛んでいるような気がするのです。

こころを洗われるような素敵な本なので、機会があったらぜひ手に取って下さい。

## わたしの好きな本・作家！！

### 『リコーナ博士のこころの教育論—尊重と責任を育む学校環境の創造—』

英米文化学科 : 吉澤 良保 先生

『リコーナ博士のこころの教育論—尊重と責任を育む学校環境の創造—』慶応義塾大学出版会、1997年、を紹介します。

一般に道德教育及び倫理等に関する参考書の類はその内容の堅苦しさや用語の難解さから大学生のみなさんにはまず縁遠いものの一つでしょう。しかし、そうであってはならないと考えます。なぜなら、著者が指摘するように道德教育とは、知・情・意の諸機能を補充・深化し、生きて働くよう統合していく働き掛けであり、それは学習と実践によって達成されるものだからです。道德教育はポール・ラングランの生涯教育原理と同様、人間が誕生して死に至るまでの時間的系列の中で

個人及び家庭や社会の生活全般にわたり必要とされる態度と心情・判断力・意欲を啓蒙する意図的で計画的な学習と実践です。

「赤信号みんなで渡れば恐くない」「真面目さを茶化して笑いの対象とする」とか「企業の利益を優先してもその結果責任を回避する」といった人間を大量生産し、利己主義をライフスタイルとして堂々と闊歩させる人間を送り出していく現代の学校環境にあって、本書は「尊重と責任」といった面から人間及び道德教育の在り方を考えさせてくれます。ご一読をお薦めします。



### John Irving : “A Widow for One Year”と大江健三郎『宙返り』

芸術文化学科 : 田尻 真理子 先生

二年前の夏に出会った二冊の新刊には、Visual Culture を研究している私にとって、はたと膝を打つものがあった。

Visual Culture とは、画像が世間に氾濫する現代の視覚経験を探求する領域である。文化領域において優勢であった言語と劣性であった画像との関係が逆転したことがかかる学問が出現する契機となっている。

国籍も作風も信条をも全く異なる二人の人気作家の作品に上述の状況が如実に反映されている。John Irving の「A Widow for One Year」と大江健三郎の『宙返り』である。アービングの作品では、事故で失った二人の息子の夥しい写真を家中に飾っていた母親が、離婚に際し件の写真を持ち去ってしまう。娘を溺愛しながらも無類の女好きで売れない児童文学作

家の父に育てられた末娘は、壁に残された写真の痕跡、即ちイメージの欠如を回復するべく言葉を操る小説家となる。大江作品には明らかに麻原彰晃を思わせる風貌の「教祖」が主要人物として登場する。彼は忘我状態において幻視をするが、その視覚像を言葉で説明することはできない。いわば教団 No.2が教祖の視覚像を言語に翻案して信者に伝えるのであるが、彼は敵対者により殺害され、「教祖」は言葉にならないヴィジョンに苦しむ。やがて「教祖」のヴィジョンを共有する者が現れるが、教団は従来の教義を否定し別の形で延命することになる。

従来文学や芸術における画像と言語の関係は「絵画のごとく詩作せよ」や優劣論争を中心に論じられていたが、この二つの作品においては、より直截な形で言語とイメージの不即不離の、あるいは一方が他方を凌駕する関係が描かれており、いかにも Visual Culture の時代を象徴する典型に思われたのである。

# 図書館は、いつもみなさんのために！

いーず・図書館司書からのメッセージ③

## 資料探しと私

図書館司書：山本和雄

私が大学生だった十数年前は、ようやくパソコンと、ワープロソフトやデータベースソフトが一般に発売され始めた時代でした。大学図書館でもコンピュータを導入しているところは少数でした。そのころ、図書館の本や雑誌を探すには、まず、五十音順やアルファベット順などに並べてあるカード目録をめくらなければなりません。図書館の目録カードや書誌・索引などを駆使しないと目指す資料にたどりつかなかったのです。大学図書館の資料だけでならず、都立図書館や国立国会図書館へ出かけないとレポートが書けないこともありました。

そのような私の学生時代とは異なり、純心の図書館で導入した蔵書検索システムは、キーワードを入力すると関係資料のリストが表示されますので、こつさえ分かれば簡単に資料を探すことが

できます。入力の仕方など分からないことがありましたら、遠慮なく相談してください。資料集めのお手伝いで他のデータベースを使うこともあります。それぞれ使い勝手が違うので、私も勉強しています。

現在では、私が、みなさんの質問や相談を受ける側になっています。質問・相談の内容によっては、どの分野の資料に当たったらよいかすぐに見当がつきにくい場合もあります。その時には、逆に私から質問して手がかりをできるだけ増やしてお手伝いします。参考になりそうな資料が見つかるまでは緊張の連続で、みなさんの探し物が見つかるとうれしいと同時に安心します。

みなさんのご利用をお待ちしておりますので、どうぞ声をかけてください。



## 新着図書案内

新着図書の中から一部を紹介します。

- |                                    |                    |
|------------------------------------|--------------------|
| 『話したい人のイタリア語入門』                    | 郡士郎著 NHK出版         |
| 『英語指導の基本 改訂版』                      | 池永勝雅[ほか] 著 桐原書店    |
| 『英語色彩語の意味と比喻』                      | 須賀川誠三著 成美堂         |
| 『言語学とコミュニケーション』                    | 小泉保著 大学書林          |
| 『経済のニュースが面白いほどわかる本』                | 細野真宏著 中経出版         |
| 『宙の名前』                             | 林完次 角川書店           |
| 『できるAccess 2000』                   | インプレス              |
| 『できるPowerPoint 2000』               | インプレス              |
| 『朝鮮ハンセン病史 ー日本植民地下の小鹿島』             | 田滝尾英二著 未来社         |
| “How Picturebooks Work”            | Garland Pub.       |
| “After Modern Art 1945-2000”       | Oxford Univ. Press |
| “Design Annual 2002”               | Gaphis Inc.        |
| “American National Biography” 全24巻 | Oxford Univ. Press |
| “TIME/CBS News”                    | Simon&Schuster     |
| “Wee Sing” 全3巻 Oprice Stern Sloan  |                    |
| “ABC Block Books” Chronicle books  |                    |

←この2冊は、英語を母国語とする子どものための本です。児童英語教育に利用できます。



### ★ 冬休みの特別貸し出し

期間：12月10日(月)  
～12月22日(土)  
条件：1人10冊まで  
返却は、1月7日  
から1週間以内です。

### ★ 冬休み中の開館日程

期間：12月26日(水)  
27日(木)  
時間：8:30-17:00



東京純心女子大学図書館報 ひびいあ  
NS.10 発行:2001.12.4

〒192-0011

八王子市滝山町2-600

電話 0426(92)0326(代)

E-mail ulibrary@t-junshin.ac.jp

ホームページもご覧ください  
<http://www.t-junshin.ac.jp/univ/lib/>